



地域支援センター 「みみらんど・群馬」

平成26年度 きこえとことばの基本研修会



第4回「聴力検査の結果の見方と活用について」

平成26年10月22日 講師：本校自立活動支援センター 飯塚和也教諭



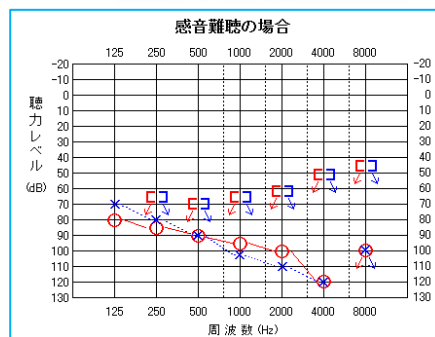
〈主な研修内容〉

- ◇オーディオグラムの読み方
- ◇話すときの留意点



★オーディオグラムについて

- ・縦軸は音の強さ（単位：dB） 横軸は周波数（単位：Hz）
- ・気導聴力（空気を伝わって耳から入る）：右○ 左×
- ・スケールアウト（測定不能）：右○ 左×
- ・骨導聴力（頭蓋骨を伝わってくる）：右 逆□ 左 □
- ・補聴装用時：両耳▲
- ・平均聴力レベル(dB) =
$$\frac{500\text{Hz} + 1000\text{Hz} \times 2 + 2000\text{Hz}}{4}$$

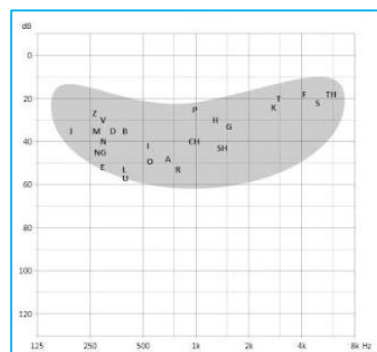


★オーディオグラムの読み方

- ・スピーチバナナを頭の中に描いて見る。
- ・補聴器をしたときの聞こえは十分かどうか？
- ・普通に話したときに聞こえているかどうか？
- ・各周波数でどの程度聞こえているか？

※オーディオグラムを読むことで、発音指導などで聴覚以外の感覚の活用が必要かどうか分かる。

スピーチバナナ（会話領域：形がバナナに似ています）



★話すときの留意点

- ・S/N比・・・聞きたい声（S）と雑音（N）の比。
S/N比が大きいほど雑音が少なく、聞き取りやすい。
- ・聴覚障がい児の場合、S/N比が+20dB位必要
（例：騒音が50dBの場合、70dB以上の声で話すと聞きやすい。）
- ・騒音計で騒音の大きさや自分の声の大きさをはかり、どのくらいの声の大きさならば聞こえるかを知ることが大切
- ・騒音のある場所ではFM補聴器の活用が効果的



騒音計

参加者の感想

- ・オーディオグラムから子どもの聞こえの状態をどのように見るか分かりました。
- ・子どもたちにとって聞こえやすい声の大きさが分かりました。今度実際に自分の声の大きさを図ってみたいと思います。